日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

イエス は 主なり

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈祷運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充満 ・ 献身 ・ 奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1　天門教会内　日本クリスチャン・アシュラム連盟　振替口座　東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp　TEL・０３-３３８５-７４９１　ＨＰ　http://ashram.jp/

## 心を明け渡す

日本基督教団無任所教師　連盟理事
牧師　柏　明史

フィリピの信徒への手紙 2：5 の御言葉、「それはキリスト・イエスにも見られるものです。」この御言葉は、昔の文語訳聖書では、「汝ら、キリスト・イエスの心を心とせよ」と訳されていました。「キリスト・イエスの心を心とする。」アシュラムとは、このすばらしい出来事が、自分の内に実現することを祈り願う時です。でも、どうしたらそんなことが実現するのでしょうか。

森有正という日本を代表する知識人がいました。祖父、父とも、高名なクリスチャンで、彼も生後間もなく幼児洗礼を授けられました。成長して、哲学者として東京大学やパリ大学で教鞭をとりました。しかし、彼の心は悶々としていました。それは、キリストの救いが分からなかったからです。

しかしある時、こう言われました。「あなたの心は、様々な知識や思想で満ち溢れています。でも、それではキリストは分かりません。キリストが分かるためには、キリストに自分の心を明け渡さなければなりません。」

これを聞いて彼は、それまで誇りにしていた自分の知識や思想をいったん脇に置いて、祈りの中で自分を明け渡した時に、キリストのことが少しずつ分かってきたそうです。

アシュラムを日本に紹介したスタンレー・ジョーンズ先生は、「サレンダー（surrender)、心を明け渡す」ということを熱心に説いた方です。サレンダーとは、全面降伏し、城を完全に明け渡すことを意味する言葉です。キリストの恵みに全面降伏し、心を完全に明け渡す。アシュラムとはそのような時だと言われたのです。

有名なエピソードですが、先生はある時のアシュラムで、いっぱいに水を満たした二つのコップを両手に持って、「皆さん、このコップの水を、こっちのコップに移すには、どうしたら良いと思いますか」と質問されました。会衆が答えられずにいると、先生は片方のコップの水を、さっと傍らの植木鉢に捨てて、空になったコップに、もう片方のコップの水を移しました。そして、こう言われました。「皆さん、皆さんの心には、様々な考えや思いがいっぱいに詰まっています。それらを明け渡して、心を空っぽにしてください。そうすれば、聖霊が皆さんの心に注がれます。」

心を明け渡すということは、様々な思いを**自分の力で**追い出すことではありません。それらをいったん脇に置いて、聖霊の御助けを祈ることなのです。

十字架の救いは、聖霊を受けることなしには捉えることができない真理です。聖霊によらなければ、誰も「イエスは主なり」と告白することはできないのです。

神様がどれほど私たちを愛してくださっているか。それは神様ご自身しかご存知ありません。もし私たちが、神様の愛が分かったと思っても、主は、「いや、私の愛はそんなものではない。私はもっともっと、あなたに与えたいのだ」と言ってくださいます。

私たちが知ったのは、計り知れない神様の恵みのほんの一部にすぎないのです。

アシュラムとは、この神様の恵みの大きさに全面降伏し、主に心を明け渡す時です。

「汝ら、キリスト・イエスの心を心とせよ。」この御言葉が、私たちの内に実現し、「イエスは主なり」と告白する恵みの時なのです。

# 霊想　超巨大地震への備え

日本基督教団 香櫨園教会
牧師　宮本幸男

「山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはないと あなたを憐れむ主は言われる。」
（イザヤ 54:10）

主イエスはヨハネ福音書 10 章の中で、救い主であるご自身を羊飼いに、主により頼んで歩む信仰者を羊にたとえています。しかし、主イエスがそのようにたとえられるとき、決して羊である信仰者をほめているのではありません。羊は猛獣に襲われても、牙や爪もないために自分で自分を守ることができません。また、自ら生きていく知恵も持たないために、羊は羊飼いの守りと導きなしには生きていけない弱い存在なのです。しかし、そのような羊にも素晴らしい能力が与えられています。それは、羊飼いの声を知っていて聞き分ける力です。

聖霊の内住によって、羊にたとえられるすべての信仰者が神の声を聞くことができるようになりました。しかし、神の声を聞くようになったと言っても、実際に自分の耳で神の声を聞くことができるということではありません。かつて石の板にモーセの律法が刻まれたように、私たちのこころの中に神は前もって言葉を刻み、それによって私たちを救おうとされるのです。つまり、「心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます」(ヤコブ 1：21)と書かれてあるように、私たちのこころにすでに植え付けられている聖書の御言葉を、あらためて受け取ることが神の声を聞くことに他なりません。

そして、この羊と羊飼いの関係の土台にあるのは、エレミヤ書 31 章に記されている契約関係です。そこには、「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」(エレミヤ 31:33～34)と書かれています。私たちに平和を与える約束は、この契約が土台となることによって、どんなことがあっても揺らぐことはないと言えるのです。

ところで、今年の 8 月に宮崎県沖の日向灘で地震が起こり、それによって「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。その注意情報を聞いて超巨大地震への備えをした人も多くいました。今の時代では、初代教会にいた預言者のような働きをする人はいないのかもしれません。しかし、神は必ず起こる災害に備えるようにと、いろいろな手段を使っていつも私たちに語りかけてくださっているのではないでしょうか。その備えは物質的なこともあれば、こころの面の準備もあることでしょう。

その超巨大地震が現実に起こる時、地面や建物が激しく揺さぶられる光景と、破壊される物音が響く恐怖の中で、私たちは一瞬たじろぐことでしょう。けれども、イエス・キリストの十字架による救いの約束を信じるがゆえに、神と私たちとの関係は決して揺れ動くことはありません。激しい揺れの中で、与えられた約束の御言葉を神から直接聞かせていただきましょう。過去に読んだ聖書の御言葉が、すでに私たちのこころに植え付けられています。その御言葉をあらためて受け取る時に、私たちは神の救いの言葉を聞くことができるのです。

激しく揺れ動く地に対し、私たちは「地よ揺れよ、勝手にわめけ」と微動だにせず、神の愛の御手によってしっかりと握りしめられている平安を実感させていただきたいと願いましょう。どんなことが起ころうとも、神と私たちの関係は決して揺らぐことはありません。私たちが神と結んだ契約によって、天地を創造された父なる神の愛は、決して私たちから離れ移ることはないのです。

# 立証 試練の中で

単立 下関ハレルヤキリスト教会
信徒　朔　恵美

次第にコロナの影響も薄れてきました。今年は九州アシュラムが再開されると聞いたとき、心から主に感謝いたしました。私たちの教会もずいぶんとコロナの影響を受けました。教会のほとんどの人が、2022年の暮れまでにコロナウィルスに感染し、ひどい症状で苦しんだ人もおられました。それから1年後の昨年の秋、やっとコロナの影響も落ち着いてきたと思っていましたら、ある兄弟が脳梗塞で倒れ入院してしまいました。その後、ほどなくしてある姉妹も脳梗塞で倒れ入院しました。またある兄弟は、ガンが見つかり、大変な闘病生活が始まりました。元々高齢の方、病んだ方が多かったのですが、私たちの教会はいつの間にか病んだ人ばかりになっていきました。

私は病で苦しむ兄弟姉妹のために祈りました。特に重い病の方のために一生懸命に祈りました。しかし祈り続けても、状況はいっこうに変わらないように思え、私の信仰は次第にぐらついてきました。祈っても祈っても主の御心がわかりません。私たちの教会は主に見放されてしまったのではないかと、本気で思ってしまうほどでした。しかし、たとえ私の信仰がぐらついても「イエスは主なり」という真理は変わりません。私は自分の心の弱さと不変の真理のはざまに立って苦しみ、主に呼ばわって祈りました。

そんな中、ひとつの御言葉が与えられました。「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです」(ローマ人への手紙6章23節)。いつのまにか辛い状況に目を奪われ、支配されてしまった私は、主がどれほど私たちに良くして下さっていたのかを忘れていました。主イエス様はまず初めに、永遠のいのちという最高の恵みを、私たちにお与えになっておられたのです。「わがたましいよ　主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩篇103篇2節)の御言葉を思い出し、悔い改めて祈りました。私は自分の信仰の弱さをはっきりと自覚しました。イエス様が捕らえられたとき、鶏が鳴く前に三度イエス様を知らないと言ったペテロのことを思い、それでもペテロを愛されたイエス様のことを思いました。「あなたはわたしを愛していますか」と、私自身もペテロのように、イエス様に問われているように思えてなりませんでした。

そうした中で、今度は私の声が出なくなりました。病院に行くと、のどが炎症を起こし、声帯にまで広がってしまっているので、治るまで数週間はかかると言われました。こんなことは初めての経験です。冷房のせいかと思いましたが、どんなことでも主のお許しなしには起こらないと思います。きっと主は、音楽を通して主に仕える私の心の傲慢を砕こうとされたのではないかと思いました。私は主が恵みとして与えて下さった賜物を、いつの間にか自分の努力の結果のように誇っていたのでした。

「苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。」(ローマ人への手紙5章3～5節)

「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」(ヘブル人への手紙12章5～6節)

苦難は避けられません。試練は必ずやってきます。しかし主はそれらを通してすべてを益に、すべてを恵みに変えて下さいます。私たちの教会は、まだ苦難のただ中にありますが、主イエス様は、きっとこの先に希望をお与え下さっているはずです。

これを書いている現在、私は久し振りに再開される九州アシュラムに参加し、私たちの教会のことを心から祈りたい、その祈りを主に聞いていただきたいと切に願っています。

## 第41回横浜岡村教会アシュラム

日本基督教団 横浜岡村教会　牧師　杉本和生

2024年度「第41回横浜岡村アシュラム」の日程は、7月13日(土)～14日(日)。主題「信仰とは見えないものを確認すること」(ヘブライ人への手紙11章1～2節)でした。

まず横浜岡村アシュラムの準備祈祷として、一週間前から同じ聖書箇所とその解説を読み、祈りの時を持って準備しました。

13日(土)午後2～5時では開会礼拝、オリエンテーション、開心の時、祈りの細胞、ファミリーアワーを行いました。出席者11名。

14日(日)は午前8時から静聴の時、祈りの細胞。ＪＣ(教会学校)でも祈りの細胞を行いました。

礼拝の時間(福音の時)には27名。午後1時半から充満の時を行いました。最後まで残られた方は11名でしたが、豊かな交わりが与えられました。

今回ＪＣの祈りの細胞で、私は下級クラスの担当でした。互いの祈祷課題を伝え右隣りの人のために祈ります。小学一年生の男の子が私のことを祈る担当でした。私は孫を育てて大変なことなど祈ってほしいと伝えました。彼は小さな手で「神さま、和生(かずみ)先生をお守りください」とかわいらしい声で祈ってくれました。祈りが終わると思わず涙が込み上げてきました。祈りの細胞で祈ってもらえる喜びを改めて感じた瞬間でした。

最後の充満の時で恵みを分かち合い、「イエスは主なり」で締めくくりました。アシュラムの恵みを感謝しました。

## 第28回東京新生教会アシュラム

日本基督教団 東京新生教会　信徒　齋藤健二

9月7日(土)20時の連鎖祈祷に始まり、8日(日)午後12時30分まで行われました。9時30分からオリエンテーション並びに開心の時が、97歳の高齢の名誉牧師・横山義孝講師によって持たれました。アシュラムはスタンレー・ジョーンズ師（米国メソジスト教団インド宣教師）が、初代教会の聖霊の交わりを現代に回復するために始めた運動であることを詳しく説明していただきました。

10時からの静聴の時は、詩篇1篇を用いて佐々木千沙子牧師が担当されました。幸いな人・正しき者・悪しき者・罪人について教えていただきました。かつて私は、求道中に祈祷会に参加した時、「罪人は正しき者の集いに耐えられない」（5節後半）とありますが、集会にいることに耐えられなくなり退席しました。今は罪赦されていることを感謝しております。

10時30分から礼拝説教「イエスは主である」。Ⅰコリント12章1～3節から横山義孝師の礼拝説教が持たれました。聖霊によらなければ誰も「イエスは主である」と言うことはできません、と力強く語られ一同感謝しました。礼拝後10分ほど休憩して、グループの祈りに移りました。3班に分団してそれぞれのニード・近況報告・祈祷課題について話し合いました。

12時10分からは充満の時が持たれました。各グループの感銘を受けた発言や感謝な報告がなされ、素晴らしいひと時となりました。その後アシュラムの歌を参加者全員で3本指を上げて合唱しました。

最後に写真撮影をして、今回のアシュラム集会を感謝のうちに終了しました。

### アシュラム予告

- 天門教会アシュラム
  日時・10月13～14日（日～月祝）
- 函館栄光キリスト教会ミニ・アシュラム
  日時・10月14日（月祝）
- 浦和別所教会アシュラム
  日時・10月19～20日（土～日）
- 城北アシュラム
  日時・2月11日（火祝）
  場所・池の上キリスト教会
- そのほか、アシュラムを予定されている教会がありますならば事務局までお知らせください。

### 編集後記

9月22～23日、5年ぶりに九州アシュラムを開催しました。

いざ開催となると、5年ぶりの開催は思った以上にブランクが大きかったことを痛感しました。参加者は14名でした。常連組が5名、新規の方が9名でした。懐かしさでいっぱいの方たちとお会いした喜びは格別でした。新規の方たちもすぐにアシュラムの雰囲気に溶け込んでくださいました。遠く山形県米沢市からの参加者もありました。場所は今回初めての糸島市にある寺田兄姉の自宅兼別荘でした。眺めは最高で、皆さんは御言葉と神が創られた自然に癒されました。宿泊は車で20分ほどのホテルでした。一室を祈りの部屋に当てました。皆さん、喜びと感謝を「祈りのノート」に書き込んでくださいました。これこそ、アシュラムの醍醐味です。

2025年の新年号で、各地のアシュラムの恵みを分かち合うことを楽しみにしています。(岡山敦彦)